

# すこやか&スマイル

梅雨真っ只中。皆さんお加減はいかがですか？

新聞やテレビ・ラジオなどで報道されているのでご存知の方も多いと思いますが、今月22日、46年ぶりに日食が観測できます。トカラ列島では皆既日食が、近畿でも80%程度の部分日食が観測できるようです。



午前10時前頃から欠け始め、12時半頃まで2時間半余りの天体ショーです。

例年なら梅雨も明けている頃ですので観られるといいですね。

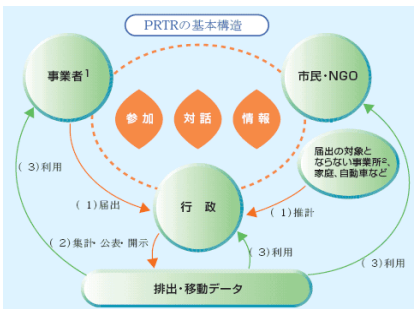
但し、直接観るのは危険です。フィルター等を準備して下さい。



## 化学物質排出移動量届出制度 PRTR

今回は、先月に続いて身の回りにある化学物質についてです。

あまり聞きなれない言葉ですが『Pollutant Release and Transfer Register (PRTR)：化学物質排出移動量届出制度』をご存知ですか。



有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計・公表する仕組みです。

PRTRによって、毎年どんな化学物質が・どの発生源から・どれだけ排出されているかを知ることができるようになります。

**環境リスク：**便利で快適な生活は、化学物質を原材料にした多種多様な製品で支えられていますが、その中には有害な性質（発ガン性・奇形・生殖機能異常等）も少なくありません。

こうした物質が環境中に排出され、汚染された空気を吸ったり、食物を食べたりすることで人や野生生物などの体内に取り込まれた場合、さまざまな問題や被害が発生する可能性があります。

このように、化学物質などが環境中に排出され、環境中の経路を通じて人の健康や生態系に有害な影響を及ぼす可能性のことを「環境リスク」といいます。

ただ、排出量を把握するだけでは人の健康や生態系にどのような影響を及ぼすかの判断はできません。

PRTRのデータに加え、化学物質の有害性や環境中にどれだけ存在しているか、分解・蓄積しやすいかどうかなどさまざまな要因と合わせて考えることが必要です。

**化学物質等安全データシート (MSDS)：**事業者が指定化学物質やそれを含む製品を他の事業者に出荷する際に、その相手方に対して化学物質等安全データシートを交付することで、その成分や性質、取り扱い方法などに関する情報を提供することが義務付けられました。（化管法：第14条）

現在462物質がPRTR対象物質となっています。

有害大気汚染物質（に該当する可能性がある物質）234物質のうち123物質、有害大気汚染物質の候補となる物質（発ガン・変異原性・生殖発生毒性・吸入慢性etc.のいずれかに該当）98物質、吸入毒性の可能性を個別に確認（経口慢性クラスに該当）3物質、原則として候補物質にならないが吸入毒性の可能性を個別に確認（生態影響クラスにのみ該当 82・オゾン層破壊クラスにのみ該当 18）100物質、有害大気汚染物質リストに含めない物質（農薬）138物質。

詳しくは、環境省ホームページのPRTRのホームページ広場 <http://www.env.go.jp/chemi/prtr/riskO.html>に掲載されていますが、見たことも聞いたこともない化学物質の名前が羅列してあり、よほどの専門家でないとうっかりとわかりません。

私たちの周りには揮発性有機化合物だけでなく、薬物・劇物、ダイオキシン、環境ホルモン等々生物にとって有害・危険なものが溢れています。

身近なものでは、タバコ・香水・整髪料・制汗剤・消臭剤・芳香剤・洗剤・化粧品……。

趣味や嗜好品もありますので全部を規制することは出来ませんが、一人ひとりでもう少しづつ気遣い・思い遣る気持ちを深くすることで住み良くなっていくのではないのでしょうか。

便利さばかりを求めるのではなく、安全を第一に考えていきたいと思えます。

## お中元

今ではデパートの販売戦略に嵌って(?)、仕事先や日頃お世話になっている人へ品物を贈ることをさすようですが、これも元々は中国の思想、陰陽五行説の『三元論』から来ているのだそうです。  
上元(一月十五日)・中元(七月十五日)・下元(十月十五日)で、道教の祭日でした。

竜王の三人の娘が陳子椿(ちんしちん)という男に恋をし、それぞれ男子を産みました。次男の神様を中元二品地官赦罪大帝(ちゅうげんにひんちかんしゃざいたいてい) 或いは中元二品七気地官清虚大帝(ちゅうげんにひんしちきちかんせいきょたいてい) といい、無極世界の洞空清虚の宮に住し、土皇・四維八極の神々を統括、人間の行為を監督しておられるそうです。  
この日は終夜灯籠に火を灯して神を祭り、供物をして罪の許しを願ったことが始まりだとか。そのことと仏教の盂蘭盆とが結び付き、両親や目上の人に進物する習慣ができていったようです。  
虚礼廃止の風潮や景気の低迷で多少CMも減りましたが、それでもこの時季は賑やかなことです。  
贈られるなら、本来の意味をかみしめて『贖罪と感謝』の念を込めて『お中元』を贈りましょう。



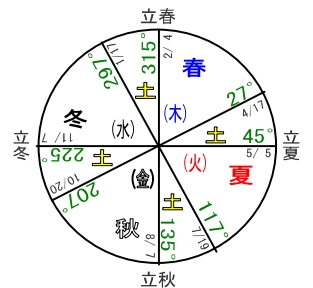
## 土用とウナギ

今年の夏の土用は7月19日～8月6日。

土用は『土旺用事』と言ったものが省略されたもので、土気の旺盛な時期ということです。  
夏のと書きましたが、本来土用は1年に4回あり、各季節の最後の18～19日間です。

これもまた中国の『五行説』という古代中国の思想で、この世のあらゆるものは全てが木火土金水の五つの要素の組み合わせで成り立つという考えです。  
四季に木火金水の気を当てはめ、余った土の気は全ての季節に均等に存在すると考えて、各季節の最後に割り振られました。

土用には季節の交代を円滑に進めるといふ意味があると考え、死んだものを「土に還す」性質と「命を育成する」二つの性質が兼ね備えられており、異なる季節の間に土用を置くことで、消滅する古い季節と、まだ十分に成長していない新しい季節の性質が静かに交代していくと考えました。



### 土用の丑：

江戸時代末の学者平賀源内が、近所のウナギ屋に相談され『本日丑の日』と書いた張り紙を出したところ、大繁盛したのがきっかけといわれています。

夏の土用の時期は暑さが厳しく夏バテしやすい時期で、昔から『精の付く物』を食べる習慣があり、土用蛸・土用餅・土用卵などの言葉が今も残っているようです。ウナギも奈良時代の頃から有名だったようです。



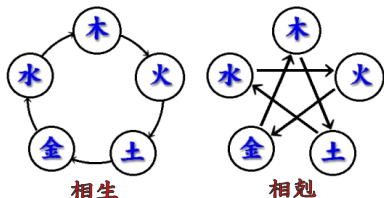
ところで、なぜ丑の日…?なぜウナギなの…?

陰陽五行説では相生と相剋という考えがあります。

相生説は、五行が対立することなく順次発生していく様を説明する理論として生み出されたものです。

木 → 火 → 土 → 金 → 水 → 木 というように循環し、木は摩擦により火を生じ「木生火(もくしょうか)」、火は灰(土気)を生む「火生土(かしょうど)」、土は金属を埋蔵し「土生金(どしょうこん)」、金属は表面に水気を生じ「金生水(こんしょうすい)」、水は木を育む「水生木(すいしょうもく)」となります。

相剋説は、五行同士の間を闘争の相の下にみようとす理論で、木 → 土 → 水 → 火 → 金 → 木 のように循環し、木は土中の滋養を奪い「木剋土(もっこくと)」、土は水流を封殺し「土剋水(どこくすい)」、水は火に勝り「水剋火(すいこくか)」、火は金属を溶かし「火剋金(かこくこん)」、斧は木を倒す「金剋木(こんこくもく)」というようになります。



そこで、なぜウナギかという本題に入りますが、夏の土用は旧暦六月(未月・土性)、土用なので五行も「土性」。直前の季節は夏で五行は「火性」。相生説では「火生土」で土性の力が突出しバランスが崩れます。陰陽のバランスをとるため相剋説の「水剋火」で土性の力をお抑えるため未(ヒツジ)と対極の丑(ウシ)で『丑の日』を配したのではないかという説です。

本来なら『牛を食べる』のが一番なのでしょうが、農耕や運搬に価値のある牛をむやみに食べるわけにはいかないでしょうから、『ウの付く食べ物』で代用したのではないかと思います。

ウナギは黒で、黒は五行説では水性。栄養価も高く夏バテ防止には好都合ということで、ウナギには気の毒ですが白羽の矢が立ったのではないのでしょうか。

今年の夏土用は丑の日が7月19日と31日の2回あります。ウナギにとっては益々受難の年のようです。

産地偽装の報道もあります。安心して美味しくいただきたいですね。

スタミナつけて暑い夏を乗り切りましょう!!